

協会による復興支援事業

●被災地への支援物資輸送

2011年6月10日(金) 宮城県南三陸町

1,900人の料理人のネットワークで継続した支援を

副会長 田中 健一郎

今回、被災地を訪問し震災後3カ月を過ぎても、想像以上に復興が進んでいないことを実感しました。南三陸町の佐藤町長のお話では、被災地ではまだまだ物資が行き届かず、特に野菜などの生鮮食材が不足しているとのこと。お届けした野菜ジュースは、まさに緊急の必需品として喜んでいただけたと思います。帰路に目にした宮城県でも有数の米どころ多賀城市も海水に浸かり、田園地帯の被災状況は痛ましいものでした。報道されない被災地域がまだまだあり、継続した支援の必要性を痛感します。協会では、近々炊き出しを計画しています。約1,900名の会員を持つ協会として、料理人同士のネットワークを生かし、他の料理協会・団体とも協力して、支援の方法を考え実行したいと思います。



協力した理事・会員:田中健一郎副会長・伊佐武二副会長・中村善二理事・菅井敏彦(仙台国際ホテル 宴会料理長)・渡邊 隆(ホテルメトロポリタン仙台 副総料理長)

野菜ジュース(200ml)×
500ケース(12,000本)



2011年6月18日(土) 宮城県山元町

力を合わせ、苦しんでいる仲間を手をさしのべよう

事務局長 柘植 末利

太平洋沿岸に位置する宮城県亶理郡山元町に会員の総意である支援物資を届けるべく8時仙台を出発。途中何ヵ所か被災区域で車を止め、10時前に現地到着。350ケースの野菜ジュースを車から降ろし指定の場所へ手運びし、皆汗だくの働きで無事引き渡しを終了、会員の皆様の心を伝えてきました。この壊滅的な状況に行政の施策が未だ行き届いていない現実を目にすると、今後も継続して支援活動をしていかねばと強く感じます。皆さん力を合わせましょう、苦しんでいる仲間を手をさしのべましょう、まずできることからやってみましょう。当日は震災から丁度100日目。帰途、名取市合同慰霊祭の文字が目飛び込んできました。心より亡くなられた皆様のご冥福をお祈りいたします。



協力した理事・会員:柘植末利事務局長・中村善二理事・町田勇地区委員・森下一博(事務局)・千石進(宮城調理製菓専門学校 総料理長)・鹿野佐一(KKRホテル仙台 総料理長)・石川一也(仙台コミュニケーションアート専門学校)

野菜ジュース(200ml)×
350ケース(8,400本)



復旧の手が届かない仲間継続した支援を 仙台国際ホテル 総料理長 中村 善二(協会理事)

宮城県の南三陸町と山元町に日本エスコフィエ協会より遠路お越しいただき、また被災地の要望を汲み取った物資をご支援いただき宮城県の日本エスコフィエ協会会員として深く感謝申し上げます。被災地は復旧復興に向けて努力しておりますが、復旧にまだ手が届いてない箇所があるのも現実です。千葉県から青森県までの沿岸部の被害は甚大です。協会には継続した支援をお願いする次第です。